

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2018年1月1日～2018年1月7日】

[当地報道をもとに作成]

平成30年1月10日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ジョージア人の解放への抗議

・2017年12月25日にアブハジアのドランダ刑務所から釈放され、ジョージア側に身柄が引き渡されたルカヴァ氏(51歳、ガリ地区生まれ)について、アブハジアの野党は「テロリスト」を釈放したとしてハジンバ「大統領」を激しく非難。「ル」氏は2012年にアブハジア側に拘束され、1994年に複数の犯罪を犯していたとして、20年の禁固刑に服していた。

・12月29日、「アブハジア共和国保安局」は、「ル」氏が南オセチア側からの求めに基づいて釈放されたと発表。

・1月3日、ソフミ市内の「大統領府」の前で抗議デモが行われた。同日夜、ハジンバ「大統領」も、「ル」氏の釈放が南オセチア側およびジョージア政府との間の囚人の交換の一部であったとの声明を発表。

・3日夜、「アブハジア共和国議会」は「特別議会」を開催し、調査委員会を設置。5日、調査委員会は釈放についての判断を「憲法裁判所」に委ねることを決定。

・4日、ビビロフ「南オセチア共和国大統領」は、囚人の釈放は南オセチア側からの依頼に基づくものであったとして、釈放がアブハジア内で緊張を招かないよう望むとの声明を発表した。

・「アブハジア共和国憲法」によれば、「憲法裁判所」がハジンバ「大統領」の恩赦が違法であったと判断すれば、「議員」の3分の2以上の賛成で「大統領」を弾劾することができるが、現「議員」の大部分は「大統領」の支持者。

2. 内政

▼大統領・首相の新年の挨拶(1日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領がトビリシ市内にて新年の挨拶を行なった。今年が1918年のジョージアの独立から100周年となることに言及し、アブハズ人およびオセット人と共に自由なジョージアを建設することが今日の目標であると述べた。また、教育制度、経済活動の促進、「国を守る人々」に対する支援の重要性を強調。

・1日、「マ」大統領は南オセチアの行政境界線付近のディディ・フルヴァレティ村を訪問した。

・クヴィリカシヴィリ首相もバクリアニから新年の挨拶を行なった。アブハズ人およびオセット人の「同胞」に呼びかけ、「我々が信頼を回復し、共通の未来を建設することができる」と信じている」と述べた。

▼国家保安庁の発表(4日)

・国家保安庁が2017年11月と12月にトビリシ市内およびパンキシ渓谷で行なわれた特殊作戦のその後の捜査の状況について発表を行なった。発表によれば、12月の特殊作戦で拘束された5名の男性は、11月の作戦で拘束・殺害されたチャタエフらのグループと関係を持ち、ジョージア・トルコ間の移動、ジョージア国内での食料・携帯電話・住居などの確保を助けていたことが明らかになった。

・また、国家保安庁は12月の特殊作戦で銃撃され、負傷した男性が、11月の作戦で殺害された人物らと共にトビリシ市内の携帯電話店にいる映像を公開。また、チャタエフは同男性名義の銀行口座を使用していたと発表した。

▼サーカシヴィリ前大統領に対する有罪判決(5日)

・ギルグウリアニ氏殺害事件に関連し、裁判所はサーカシヴィリ前大統領の有罪を認め、本人不在のまま3年の禁固刑を言い渡した。裁判所が「サ」前大統領の有罪を認めたのは初めて。

・検察によれば、2006年に起きた「ギ」氏殺害事件の数週間後に、「サ」前大統領はアハラリア内務省憲法保安局長(当時)に対し、同事件の責任を認める同局職員を恩赦し、殺害を命令・実行した者を公表しないことを約束した。その後、恩赦委員会を通すことなく恩赦を行なった。

・統一国民運動、自由のための運動・欧州ジョージアの関係者らは裁判所の判断を批判。

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、「ギ」氏殺害事件に対する「サ」前大統領の政府の対応は当初よりジョージア社会に大きな懸念を引き起こしたとしつつ、憲法が定める大統領の恩赦の権利を検察が起訴の理由としたことは「憂慮すべきである」として、判決を批判。

3. 経済

▼ジョージア・中国自由貿易協定の発効(1日)

・2018年1月1日よりジョージア・中国間の自由貿易協定が発効。ジョージアは中国からの輸入品の96.5%について関税を撤廃。中国はジョージアからの輸入品の90.9%について関税を撤廃し、今後5年間で更に3%を無関税とする。

・ジョージアと中国は、2015年9月に自由貿易協定に関する協議を開始し、2016年10月に協議を完了。2017年5月に自由貿易協定への署名を行なった。

・2017年1月～11月の統計では、中国(貿易高8億3430万ドル)はジョージアにとってトルコ(14億1千万ドル)、

ロシア（10億5千万ドル）に次ぐ第3位の貿易相手国。

▼2017年12月のインフレ率(3日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率は0.8%。食料品・非アルコール飲料の価格が1.4%上昇、輸送費が1.5%、医療費が2.3%上昇。

・年間インフレ率は6.7%。食料品・非アルコール飲料の価格が7.3%、輸送費が14.9%、アルコール飲料・タバコの価格が17.5%、医療費が8.1%上昇。

▼2017年の外国人入国者数(5日)

・国家観光局の発表によれば、2017年にジョージアを訪問した外国人の数は7,554,936人で、2016年と比べて1,194,433人(18.8%)増加した。うち、ジョージア国内で24時間以上滞在した外国人の数は3,478,932人で、2016年と比べて757,962人(27.9%)増。

・出身国別では多い順にアルメニア1,718,016人(前年比14.8%増)、アゼルバイジャン1,694,998人(同11.2%増)、

ロシア1,392,610人(同34.1%増)、トルコ1,246,745人(同0.8%減)、イラン322,938人(同118.3%増)。

・英国(前年比39.0%増)、オランダ(同31.1%増)、スペイン(同29.9%増)、フランス(同29.6%増)、ドイツ(同25.7%増)などEU諸国からの観光客も増加傾向にある。ヨルダン(同316.1%増)、サウジアラビア(同164.6%増)、クウェート(同154.3%増)、イラン(同118.3%増)、インド(同64.1%増)、中国(同54%増)などからの観光客の増加が著しい。

・2017年中の外国人訪問者による外国銀行カードによる取引額は1,926,566ラリで前年比30.3%増。

・チョゴヴァゼ国家観光局長は、「観光収入の増加も顕著である。2016年は国際観光からの収入が初めて20億ドルを越えた。2017年の収入は27億ドルに達した。2018年には、8百万人の外国人訪問者および30億ドルの観光収入の2つの重要な目標の達成が期待される」と述べた。